

普及項目	養殖
漁業種類等	養殖業
対象魚類	ヒトエグサ
対象海域	天草西海

ヒトエグサ養殖の現地指導について

天草広域本部水産課・阿部 慎一郎

【背景・目的】

天草地区では、ヒトエグサ養殖が盛んであるが、生産量が安定しないことが課題の 1 つとなっており、令和 2 年（2020 年）においては採苗不調や高水温により不漁となった。

そこで、生産量の安定化を図るため、天草地区の主要産地の 1 つである苓北町の生産者に対して、ヒトエグサ養殖管理に係る勉強会及び現場指導を実施した。

今年度は、苓北町における平成 26 年（2014 年）から令和元年（2019 年）の平均生産量約 1.7 t 以上を生産することを目標とした。

【普及の内容・特徴】

漁期前の令和 2 年（2020 年）8 月 21 日に、天草漁業協同組合苓北支所所属のヒトエグサ養殖生産者 5 名を対象に勉強会を開催し、適水温での採苗及び適切な干出管理が重要であることを説明した。また、生産者との個別の意見交換も行い、前年に採苗不調だった生産者には、採苗場所を見直すよう指導した。また、葉体への多量の珪藻の付着によるドタ腐れ病が発生した生産者には、養殖網の設置高を高くするよう指導した。

漁期中は、概ね毎月 1 回から 2 回、養殖現場を巡回し、養殖状況の確認及び生産者への指導を行った。

9 月下旬から始まった採苗については、前年、採苗不調だった生産者も含め、概ね順調な芽付きが確認された。

その後の育苗においては、10 月下旬以降、一部の養殖網において、スジアオノリ等の雑藻の付着が多くみられたため（図 1）、該当する生産者に養殖網の設置高を上げるよう、対面又は電話により指導を行った。

なお、前年みられたドタ腐れ病については、発生はみられなかった。

ヒトエグサの摘採は 12 月下旬から開始され、一部にアマノリ類の混入も見られたが、葉体の色調も良く（図 2）、4 月下旬まで順調な生産が行われた結果、苓北地区の生産量は 2.4 t と、平成 26 年（2014 年）から令和元年（2019 年）の平均生産量約 1.7 t を上回る生産となった（図 3）。

【成果・活用】

今後も指導を継続し、ヒトエグサの生産量の安定化を図っていく。また、苓北地区以外でも指導を行っていく。

【達成度自己評価】

5 十分に達成され、目標（指標）を上回る成果が得られた（101%以上）

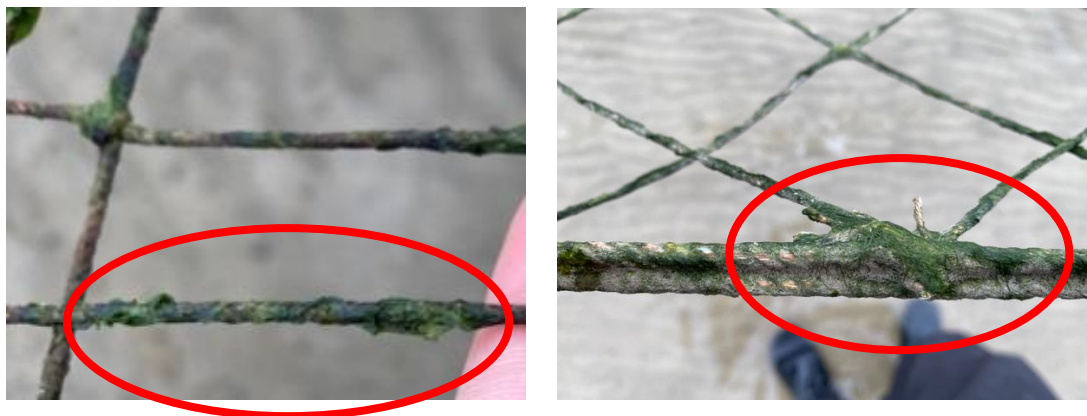


図1 育苗期の正常な養殖網（左図）及び雑藻が付着した養殖網（右図）



図2 摘採期の養殖網及び出荷製品

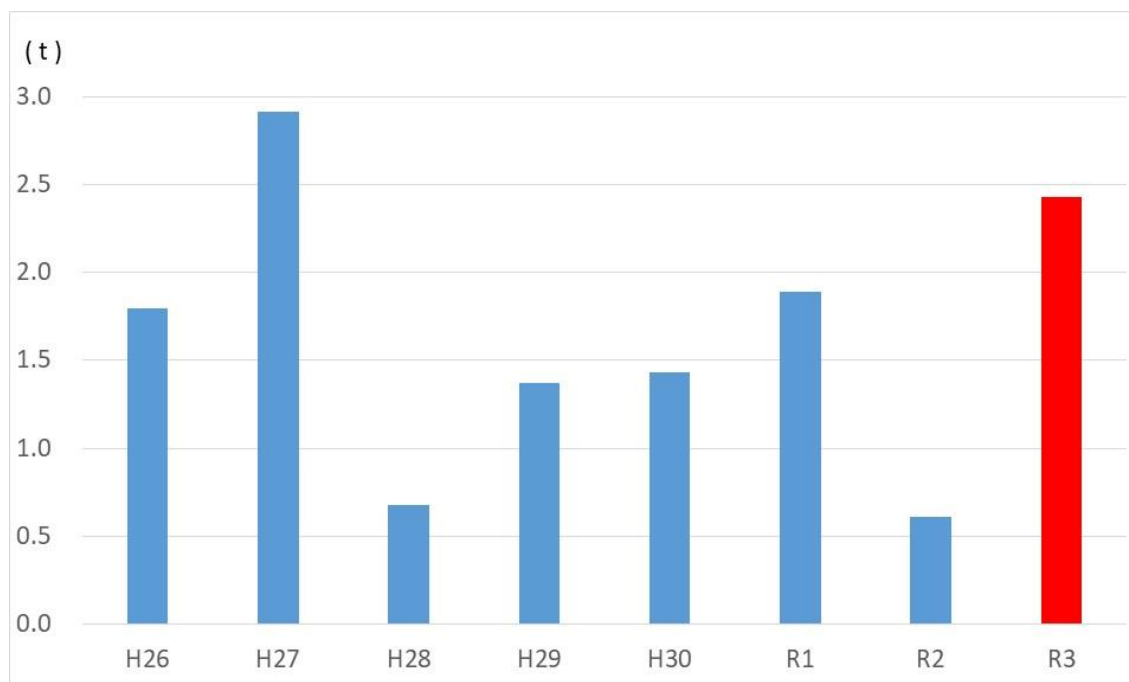


図3 苓北地区の養殖ヒトエグサ生産量の推移